

6月の学校だよりの冒頭文です。6月7日の運動会に向けて、ご家庭との共通理解を図りたくて、このように記しました。子供たちには運動会を経て、一回り大きく成長してほしいと願っています。

憧れと期待をもつこと

ノミを使った実験の話です。ノミは、体長の数十倍ものジャンプ力をもつ生き物です。ノミを容器に入れ、透明な蓋をして育てます。すると、はじめノミは、ジャンプするたびに蓋に当たることを繰り返します。けれどもそのうちに、蓋に当たらない高さでジャンプをするようになります。その後、蓋を外してみますが、以前のように容器を超えてジャンプすることはなくなります。もう遮る蓋はないのですけれど。

続いて、蛙の話です。「井の中の蛙 大海を知らず」という言葉があります。これは、ご存じのとおり、「世間知らず」ということを示す言葉です。けれども、この言葉には、まだ続きがあります。「されど、空の青さを知る」——この蛙が井戸から見上げる空は、恐らく抜けるように青いはずです。外界への憧れと期待を抱く蛙の姿を容易に想像することができます。

本校では、今年度、教育目標の三つのうちの一つに「進んで学びに向かう児童の育成（かしこく）」を据え、教育を進めてきています。その「進んで学びに向かう心持ち」が生じる条件は、三つあるそうです。それは、「自分で選ぶこと」「憧れと期待をもつこと」「誰かと一緒に行くこと」です。

「自分で選ぶこと」に関しては、昨年度9月号の「わかぎ」冒頭に記させていただいたとおりです。今回、その次の「憧れと期待をもつこと」について考えた時に、上述のノミと蛙の話が頭に浮かんできました。

跳ぶ力は十分あるのに、理由も分からないまま蓋にぶつかり続けることを繰り返した挙句、自分への期待感を無くし、跳ぶ勇気をもてなくなってしまったノミ。一方、世間知らずではあるけれど、井戸の中で安心感に包まれて育ち、青い空とその空がある外界に憧れる蛙。この両者を憚りながらも子供たちに例えた時に、進んで学びに向かうことができるのは、間違いなく外界に憧れる蛙の方であると考えます。

蛙（子供）は、井戸（学校・家庭）の中の居心地がよければよいほど、井戸から見える空の青さに、そしてその空の下にある世界に思いを馳せます。そこには、どんな風が吹き、何が暮らし、どんなことが起こるのか。知りたくて、知りたくて、「憧れと期待」を募らせます。そしてそのうち時を見計らい、必ずや勇気を振り絞って井戸の外にある新しい世界に飛び出ていくことでしょう。なぜなら、かつて心理学者マズローが唱えたように、人はある欲求を満たすと、「自己実現」をゴールに、より高次の欲求の充足に向かっていく生き物だからです。

学校では、常々、「進んで学びに向かう心持ち」につながるその「憧れと期待」を大事にしたいと思っています。それらは、新しく出会う「ひと、もの、こと」を肯定的に捉え、勇気と好奇心をもって能動的に対峙していこうとするときに原動力となるものです。ですから学校や家庭は、「透明の蓋」では決してなく、「空の青さ」を子供たちに与えてあげなければならないと考えています。

来る6月7日は運動会です。全力で取り組む他者の姿への「憧れ」や共に力を合わせて作り上げていける自分たちへの「期待」をこの運動会を通して、できるだけ多くもたせてあげたいと思っています。

運動会当日、皆様には是非、子供たちがこれまでの自分を超越する勇気を奮い立たせるために、温かなご声援で子供たちの背中を押していただけますよう、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。